

## とちぎ創生15戦略の現状評価により抽出した課題一覧

○基本目標1 とちぎに安定したしごとをつくる

戦略	No.	課題
【戦略1】 ものづくり県の更なる 発展と新産業の創出	1	<p>&lt;県内企業のIoT等活用促進&gt;</p> <p>・県内企業からIoT等の革新的なものづくり手法の導入に関心が高いことが示されている中、国においては、地域未来投資促進法や地方版IoT推進ラボ等により中小企業におけるIoT導入等について重点的に支援する仕組みづくりに取り組んでいます。本県においても、こうした動きを的確にとらえ、製造品出荷額等の増加はもとより本県企業の競争力強化が図れるよう、本県企業によるIoT等の活用の支援に早期に取り組む必要があります。</p>
	2	<p>&lt;県内における創業しやすい環境の整備&gt;</p> <p>・中小企業白書2014によれば、女性やシニアは意欲やアイデアはあるものの、創業に結び付きにくいとされており、開業率を上げるためには、女性やシニア層による創業の促進を図っていく必要があります。</p>
【戦略2】 成長産業へ進化する 農業の確立	3	<p>&lt;米政策の見直しに対応した園芸作物への作付転換&gt;</p> <p>・平成30年産からの米政策の見直しに伴い、需給バランスの崩れによる米価下落や米直接支払交付金廃止による農家所得の減少、さらには空き農地の発生拡大等、様々な影響が懸念されています。特に、農地の8割を水田が占める本県においては、主食用米から園芸作物への作付転換を早急に進める必要があります。</p>
【戦略3】 林業・木材産業の成 長産業化	4	<p>&lt;素材生産力の強化&gt;</p> <p>・林業産出額は、皆伐促進事業の成果等により素材生産量が増加していることから、増額すると見込んでいますが、引き続き素材生産量の増加に向けた取組を実施していく必要があります。</p>
【戦略4】 国内外からの観光誘 客強化	5	<p>&lt;観光情報等の発信力の強化&gt;</p> <p>・更なる観光誘客や県産品の販路拡大を図るため、首都圏はもとより、本県の知名度の低い大阪を中心とした関西圏等において栃木県の魅力である観光や県産品等の情報に触れる機会を積極的に創出していく必要があります。</p>

<b>【戦略5】</b> 多様な人材が働きやすい就労環境づくり	6	<県内企業の人材確保・育成> ・県内企業の人手不足による事業展開への影響や、企業誘致における立地先の選定の際に人材の確保を重視する企業のニーズへの対応が困難になることが懸念されることから、新規立地企業を含む県内企業が必要な人材を確保できるよう、関係機関との連携を図り、人材確保のための取組を強化する必要があります。 また、全国でも有数のものづくり県である本県の産業を支える技能者の裾野の拡大を図るため、技能五輪全国大会の開催を契機に高まった技能レベルや技能尊重気運、及び次世代人材育成等の取組をレガシーとして継承していく必要があります。
	7	<女性が働きやすい職場環境の整備> ・女性求職者については、フルタイムでの勤務を希望するものの、長時間労働などにより仕事と家庭の両立が困難であるため、やむを得ずパートタイムで就労するケースもあると考えられるなど、女性求職者の意向と企業の職場環境のミスマッチが生じていることから、女性の就職率の向上を図るためには、企業の職場環境の改善を図る必要があります。
	—	<県内における創業しやすい環境の整備>（課題No.2の再掲） ・中小企業白書2014によれば、女性やシニアは意欲やアイデアはあるものの、創業に結び付きにくいとされており、開業率を上げるためには、女性やシニア層による創業の促進を図っていく必要があります。

○基本目標2 とちぎへの新しいひとの流れをつくる

戦略	No.	課題
<b>【戦略6】</b> 地元とちぎへの若者の定着促進	8	<県内大学等の魅力づくり> ・大学の東京一極集中の是正は、全国知事会でも強く主張してきているところであり、県としても様々な場を通じて訴えていく必要があります。 また、地方大学の中から本県の大学等が県内の高校生等に選ばれるよう、大学コンソーシアムとちぎと連携し、各大学等の魅力づくりを進める必要があります。
	9	<県内大学生等に対する地域理解の促進> ・宇都宮大学は、県内の「知の拠点」として、産学官連携のもと、地域産業の発展と人材の育成に資する教育プログラムを展開しているところであり、当大学等により構成される大学コンソーシアムとちぎと連携し、県内の大学生等に対して、本県の現状と課題、県内産業の魅力や可能性等に関する理解を促進し、とちぎへの愛着心の醸成や地元定着につなげていく必要があります。

<p>【戦略7】 立地環境を生かした 企業誘致の推進</p>	-	<p>&lt;県内企業の人材確保・育成&gt;（課題No.6の再掲） ・県内企業の人手不足による事業展開への影響や、企業誘致における立地先の選定の際に人材の確保を重視する企業のニーズへの対応が困難になることが懸念されることから、新規立地企業を含む県内企業が必要な人材を確保できるよう、関係機関との連携を図り、人材確保のための取組を強化する必要があります。 また、全国でも有数のものづくり県である本県の産業を支える技能者の裾野の拡大を図るため、技能五輪全国大会の開催を契機に高まった技能レベルや技能尊重気運、及び次世代人材育成等の取組をレガシーとして継承していく必要があります。</p>
--	---	--

○基本目標3 とちぎで結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる

戦略	No.	課題
<p>【戦略9】 結婚支援の充実</p>	10	<p>&lt;婚姻件数の増加に向けた対策の推進&gt; ・婚姻件数は、20歳代及び30歳代の人口減少等に伴い、全国的に減少傾向にあり、本県も同様であることから、婚姻件数を増やすための対策を講じる必要があります。</p>
<p>【戦略10】 妊娠・出産支援の充実</p>	11	<p>&lt;母子の状態やニーズに応じた、妊娠から出産、子育て期まで切れ目のない支援の充実&gt; ・妊娠・出産について満足している者の割合は上昇しており、多くの母子保健事業の実績は高い状況ですが、産後1か月までの新生児訪問の実績は6.9%と低く、産後うつや虐待死亡等のリスクの高い産後1か月間における支援の充実を図る必要があります。 「子育て世代包括支援センター」は徐々に増加しており、妊娠期から切れ目のない効果的な子育て支援ができるようにするとともに、未設置市町に居住する母子に対しても支援ができる仕組みを構築する必要があります。</p>
<p>【戦略11】 子ども・子育て支援の充実</p>	12	<p>&lt;保育所等の受入枠の拡大及び保育士の確保&gt; ・保育所等への申込児童数の増加等により、待機児童は解消されていないことから、引き続き保育所や認定こども園の新設等により受入枠の拡大を進めるとともに、保育士・保育所支援センターの活用等により保育士確保対策に努める必要があります。</p>

○基本目標4 時代に合った地域をつくり、とちぎの安心な暮らしを守る

戦略	No.	課題
<p>【戦略12】 暮らしやすいとちぎの「まち」づくり</p>	13	<p>&lt;住民による地域コミュニティの維持・再生活動の促進&gt; ・人口減少・高齢化の進展に伴い、行政サービスの低下や商店の撤退などの生活サービスの低下により、集落機能が衰退しており、将来的な集落の維持が危ぶまれる一方、その集落で暮らし続けたいというニーズも高い状況にあります。 また、自治会における役員のなり手不足、加入率の低迷などにより、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。 人口減少社会が続く中で、集落機能を維持していくためには、地域住民主体による地域コミュニティの維持・再生活動を促進していく必要があります。</p>